

株式会社ヘルスケアシステムズ

ビジネスモデル変革・DX実現を目指す名古屋大学発ベンチャー 全部署が主体となつてのデジタル化推進に挑戦

株式会社ヘルスケアシステムズ 実証結果【1/5】

企業概要

- 企業名
株式会社ヘルスケアシステムズ
- 社長
代表取締役社長 瀧本 陽介



- 概要
 - 名古屋大学発ベンチャーとして、大学で培われた研究データと検査技術に基づいて、郵送検査や各種研究開発、エビデンス提供などを行っている。同社は病気になる前の「[未病](#)」領域に特化した郵送検査サービスが主力。その「[生活習慣を見える化](#)」することで、「[生活習慣のミスマッチをゼロにする](#)」サービスを展開することを企業ミッションとして掲げ、顧客の健康寿命の延長に貢献することを目指している
 - 現在は、検査結果を届ける企業から、[健康を届ける企業](#)へと成長するため、蓄積された検査データを解析し、検査ユーザー一人ひとりに対して必要な検査項目や今日から取り組める行動が自動で表示されるサービスの展開を目指し、[全部署が一丸](#)となってデジタル化とDXを実現するべく、日々取り組んでいる

デジタル化推進の背景

- 2015年頃より、代表がビジネスモデルの変革を検討。検査というモノのビジネスから、デジタルを活用したコトのビジネスへの変革が重要と考えるも、システム構築体制がなく機会を探る
- 2019年 補助金の支援もあり、ヘルスケアDXの実現を目指し専門部署としてICT事業部の立ち上げ。システム開発の内製化を推進し基幹システムを構築。分析ツール（NTTデータ数理システム社製 Alkano）の導入や、DX認定取得などデジタル化推進に取り組む
- 事業拡大に伴う新規部署の設立等もあり、従業員数も増加。部署間の連携や社内ナレッジの共有が急務になってきた

導入ツール



- 「Excel読み込み」や「ドラッグ&ドロップ」で簡単にシステム構築ができる業務改善ツール
- 顧客管理案件や日報など幅広い用途で使用可能で、リアルタイムでの共有、情報の一元化が可能
- 本事業では、在庫管理等のアプリケーション開発・改善を現業部署主体で実施

専門技術者の採用課題が社内デジタル化推進の課題だった 専門技術者でないユーザー主体のデジタル化に取り組み現状の打破を目指す

株式会社ヘルスケアシステムズ 実証結果【2/5】

モデル実証を通じて解決を目指した課題

専門技術者の採用課題

- デジタル化推進に専門技術職が重要だが、中小企業では専門人材採用・教育の体制を構築することができない。開発部署の規模拡大ができず外注対応
- 社員の会社方針理解度も高く、現場業務のデジタル化対応希望の対象が多くあがる。しかしながら、この希望に対する開発部署の人手不足で、対応ができない
(開発リソース不足)

情報の分散

- システム部署での対応ができない為、各部署作成のスプレッドシート管理となり、全社統合的な情報管理ができなかった
- 部署から全社へ報告するためには資料作成などで別途対応をしていた (作業の無駄)

課題解決に向けた取組内容

専門技術者に頼らない対応体制の構築

- kintoneを活用することで現場での対応を実現する
⇒ スプレッドシートと同様に活用できるかを検証
- 必要部品は専門技術者にて対応し部品を配布
(ワークフローのテンプレート配布等) これを元に各現場で対応を実現
- 【将来目標】kintoneで確立した処理・フローを基幹システムへの統合。これにより基幹システム導入時の手戻りが格段に削減する想定

情報の一元化

- 各ファイルの管理から、共有すべき情報は共通インフラで管理し、全社統一の情報共有を目指す
- この共通インフラとして全社で kintone が活用できるかを検証

インフラ活用方法の悩みと地道な活動の自律的推進 結果として実証期間内にkintoneを活用した社内情報管理の基盤を構築

株式会社ヘルスケアシステムズ 実証結果【3/5】

実証時に感じた壁および克服のためのアクション

実証時に感じた壁

- kintone はインフラであり、何から取り組むべき？という課題があった ⇒まずは「在庫管理」を対象
- kintoneの操作自体が初めての作業者が多く、ログインの仕方から操作を教える必要があった
- ITリテラシーの低い従業員もいるため、kintone操作を問題なくミスなく出来るかの心配があった

克服のためのアクション

- 画面キャプチャを使用したマニュアルを事前に用意し、初回作業時はログイン～実際の作業手順の説明を実施し現場理解に努めた

取組の成果

- 在庫管理では、入出庫処理が簡便に出来るようになった。従来では関数を組んだシートを用いており、関数が壊れてしまう・現在庫数が見えにくいという課題があったが、kintoneを用いて課題を解決し、運用しやすい管理表を構築することができた
- スマホからでも使用できる利点を生かし、従来の紙運用 ⇒データ入力を廃止し、スマホでのバーコード読み取り ⇒数値入力への運用移管を推進中
- 取組完了前に kintone 全社導入を決定。実証対象の在庫管理だけでなく、ワークフロー、検査キット資材管理など、**82個（試作中21個含む）**のアプリによって、全社での情報管理を実現した
- 情報インフラは一部の人間が使えるだけでは駄目であり、全社での試行が必要であった。このような実証検証ができた結果、全社導入の決断ができた。
自社で利用料を負担しながらの検証であれば、ここまでの判断はできなかった可能性がある

実証体制

全体統括	ICT事業部 林氏
実証統括	総務部 福士氏・梶原氏
実証対象	検査事業部 統括 星氏

- システム部署ではない総務部が実施統括
- 実施部署では星氏が統括し他3名が参加
- 最終的には全社で展開

デジタル化成功のカギはトップメッセージとチャレンジを応援する風土・制度 デジタル化を人任せにせず全員が自分事と考え行動することが成功のカギ

株式会社ヘルスケアシステムズ 実証結果【5/5】

今後の課題・目標

課題

- 現場で様々な情報管理（アプリ）ができ、統合的に管理する必要が想定される
- ここを取捨選択し、基幹システムへの統合など改善が必要であり、この運用が今後の課題
- 現場で作成し基幹システムで作成しと二度手間に見えるが、一度でうまく定着するシステムも少なく、現場で試行錯誤できるインフラが作れたので最大限活用していく
- しかし専門人材の確保・教育の部分は未解決。この部分の解決も必要であり、対策・対応を検討し続ける必要があると考えている

目標

- kintoneによる管理にあたり、似たようなデータ管理があった場合の管理方法の確立
- kintoneへのデータ入力方法の効率化
紙の伝票管理から、QRコードやバーコードによる入力移行等。このような業務効率化とペーパーレスの推進を目指す

(デジタル化を推進する他企業への) メッセージ

将来を見据えて

- デジタル化に着手すると、既存のやり方と新しいやり方が混在するため、どうしても現場負担は増え生産性が悪くなります。当社はこの山を投資と捉え、後で必ず効果が出ると信じて全社一丸となり実施しました（今回の実証では、どのような効果が出そうか、どうすれば効果が出やすいかを相談し、ご助言・ご支援頂きました）
- 全社で一丸となって対応するには、会社の方針と社員の自主的な参加が重要であり、山を乗り越えればそれが当たり前となります。今回のような実証事業などを活用し、当社では以下のような取り組みを実施しました。

- ① トップからの恒常的なメッセージ発信に加えて
- ② 新しいものを楽しんで触れる環境の提供
- ③ 得意な人頼みを回避し皆ができるように

を目的として **チャレンジする人を応援する制度** を提供しました。最近では「**マナビDXクエスト**」お祝い金制度を実施しました。当社代表もチャレンジし、多くの社員が参加しました。また、

- ④ 自分事にする

が重要と考えており、⇒ **内製化は自分事への第一歩** と考え、自分事とすべく全社一丸で取り組んでおります！

弊社の取り組みが、皆様のご検討の一助になれば幸いです